

大会名称: 第3回FIBA U-17女子バスケットボール世界選手権大会

開催場所: City Arena Pilsen(チェコ・プルゼニ)

試合区分: No. 205 女子 予選ラウンド・グループC コミッショナー: Serge DE COSTER(BEL)

期 日: 2014(H26)年6月28日(土)

主審: Markos Elias MICHAELIDES(SUI)

開始時間: 13:30

副審: Gentian CICI(ALB), Gizella Viola GYÖRGI(NOR)

終了時間: 15:00

<b>オーストラリア</b> (通算1勝0敗)	○ <b>54</b>	10 -1st- 10 17 -2nd- 9 8 -3rd- 8 19 -4th- 19 -OT1- -OT2- -OT3-	● <b>46</b>	<b>日本</b> (通算0勝1敗)
----------------------------	----------------	--	----------------	-----------------------

第3回FIBA U-17女子バスケットボール世界選手権大会が開幕。立ち上がりから互いに我慢の時間帯が続き、ロースコアな展開となる。オーストラリアは#4TUPAEA、#5PINEAUを中心に得点を重ねるのに対し、日本はシュートがリングに嫌われ、なかなかペースを掴めない。その後、日本が追いかける形で試合は進み、27-35と8点ビハインドで最終ピリオドに入った日本は、2-2-1のゾーンプレスから反撃の糸口を掴むと、連続して3Pシュートを沈め、一時逆転に成功する。しかし終盤、この試合で23得点を挙げたオーストラリア#5PINEAUに連続してゴール下シュートを許し、タイムアップ。46-54で日本は惜敗し、初戦を落とした。

第1ピリオド、日本は#4加藤、#5水野、#6西岡、#8遠藤、#11中田でスタートする。立ち上がり、オーストラリアのパワーと高さには押され、#4TUPAEA、#5PINEAUに得点を許す。その後も日本はリバウンドが取れず、開始5分で3-8と得点が伸び悩む。しかし日本は#5水野の3Pシュート、#10脇のゴール下、#8遠藤のジャンプシュートで応戦し、10-10の同点で終了する。

第2ピリオド、日本は開始から、オーストラリアのゴール下でのプレイやスクリーンプレイに重点を置いて必死に守るが、#10BIBBYのゴール下、#11FORCADILLAや#12KENNEDY-HOPOATEのドライブインに対してファウルが重なり、フリースローから得点を許す。その後も日本はペースを掴めず、追う形で苦しい展開となるが、#8遠藤の3Pシュート、#5水野のジャンプシュート、#11中田のゴール下で得点を挙げる。しかしこのピリオドで9点しか得点できず、19-27と8点ビハインドで前半終了。

第3ピリオド、日本はスターティングメンバーに戻してゲームに入ると、ディフェンスを頑張り、相手の体力を奪っていく。その中でもオーストラリアは、前半から好調な#4TUPAEAのジャンプシュートや#5PINEAUのゴール下シュートを起点に得点を重ね、リードを広げていく。一方、追い上げたい日本は、果敢に攻めてシュートを放つが、リングに嫌われて思うように得点できず、我慢の時間帯となる。その後、日本は2-2-1のゾーンプレスで相手のリズムを崩し、27-35と8点差を追いかけ、勝負の最終ピリオドへ。

第4ピリオド、反撃のチャンスを狙う日本は#4加藤、#5水野、#8遠藤、#10脇、#14赤穂でゲームに入る。すると、2-2-1のゾーンプレスから勢いに乗り、#4加藤のゴール下でのシュートに3Pシュート、#8遠藤のジャンプシュート、#5水野と#14赤穂の3Pシュートで一気に畳み掛け、43-39と逆転に成功する。たまたまオーストラリアはタイムアウトを要求すると、その後、得点源である#5PINEAUにゴール下で連続得点を許し、再びオーストラリアがリードを奪う。一方の日本は積極的にシュートを狙いに行くも、焦りから決めきれず、さらにはミスが続いてタイムアップ。46-54と8点差で惜敗し、初戦を黒星スタートとした。

次戦、6月29日(日) 15:45(現地時間)より、予選ラウンド(グループC)第2戦をメキシコと対戦する。